



肥後ちゃぼ保存会（吉永嘉会長ほか120人）が、碧水小学校へ国天然記念物の肥後ちゃぼのつがい2羽を寄贈し、6月3日、吉永会長ほか3人の会員が学校を訪れ、贈呈式が行われました。保存会は、飼育を通じて命の大切さを学んでもらおうと9年前から熊本市内の学校や幼稚園へ肥後ちゃぼの寄贈を行っています。今回は会員の高宮達生さん（坊中）が育てた肥後ちゃぼが碧水小にきました。

鶏小屋を設け、肥後ちゃぼが来るのを心待ちしていた児童たち（1、2年生）は、飼い方の説明を受けると、早速鶏小屋に移し「かわいい!」「私がエサをやる」と喜んで飼育に取り掛かりました。また、南阿蘇村の長野茂幸さんからも教材用にと、カブトムシの幼虫20匹をいただきました。

学校の人気もの「肥後ちゃぼ」



▲贈呈式の様子。



▲授業や休み時間にメダカを観察する児童の様子。
（写真は宮地小）

学習用にメダカを寄贈

林正男さん（内牧2区）の配慮で、長洲町で鯉などの鑑賞魚販売を営む牛島辰喜さんが、6月2日、学習のためにと、メダカ1300匹を阿蘇市に寄贈し各小学校に配られました。牛島さんによるメダカの寄贈は今年で5年目になり、児童たちも毎年メダカが来るのを楽しみにしています。

父の日に牛乳をプレゼント



大阿蘇酪農業協同組合女性部（阿部佳代子部長）は、6月6日、牛乳の消費拡大を願った「父の日に乳（ち）を贈ろう!」という全国キャンペーンの一環として、阿蘇市役所を訪れました。

市役所では、父親を代表して佐藤市長に「牛乳を飲んで頑張ってください」と激励の言葉とともに牛乳をプレゼントしました。

酪農家の皆さんに、牛乳の消費拡大へのご協力をお願いします。

田んぼの学校で農業に親しみを

阿蘇市内の小学校では、保護者の皆様のご協力で田植え体験が毎年行われています。波野小学校では5月28日、赤仁田に借受している学校田で全校児童（73人）と保護者による田植えが行われました。夏には、生き物調査、秋には稲刈りをし、収穫したもち米は学習発表会で餅つきをします。

